

# 長期休校、学力に影響なし

## 文科省 小6・中3、コロナで調査

文部科学省は28日、小学6年と中学3年を対象に同一問題を使って学力の変化をみる「経年変化分析調査」の結果を公表した。最長で約3カ月に及んだ2020年春の新型コロナウイルスによる長期休校の影響は顕著には見られなかつた。一方、家庭の経済状況による学力格差が広がつた懸念があるといつ、同省は引き続き慎重に調査結果を分析する。

### 経済力で格差指摘も

調査は、全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の一環として昨年6月に実施された。13年度、16年度に続き今回は3回目。国語と算数・数学のほか、中学では今回から英語も対象教科に追加され、全国の国公私立の小

中学校約1300校を抽出して調査した。経年での変化を確認するため、た学力テストの本体調査

は別に非公表の同一問題を出して比較した。

問題の難易度などをもとに算出する「学力スコア」の平均で比較すると

小学生の国語は505・8で16年度と変わらず、算数は507・2

と5・2点上昇した。中

学でも同様の傾向で、国

語は511・7で3・1点、数学は511・0

で9・0点それぞれ上

がつていた。

学力テストを巡って

は、全国約2万9千校の

計約194万人を対象と

して昨年5月に実施され

た調査の結果が既に公表

されている。20年3月か

ら最長3カ月に及んだ臨

時休校による対面授業減

少の影響が注目された

が、同省は「全体でみる

と、コロナ前後で学力低

下などの変化は見られな

かった」と説明した。

背景のひとつとして、

休校による学習の遅れを

取り戻そうとする学校側

経年変化分析調査の結果

| 国語   |       | 算数(数学) |             |
|------|-------|--------|-------------|
| 16年度 | 21年度  | 16年度   | 21年度        |
| 小6   | 505.8 | 505.8  | 502.0 507.2 |
| 中3   | 508.6 | 511.7  | 502.0 511.0 |

(注)数値は「学力スコア」の平均

(出所)文部科学省

の取り組みがあるとみられる。文科省によると、家庭の環境で学力格差があるとみており、今回は夏休みなど長期休暇を短縮して授業を行つた小中学校はいずれも9割を超えていた。

一方、28日に開かれた学力調査に関する専門家会議では、結果について「上位層と下位層の差が開いた可能性もある」といった指摘もあった。

の学習支援にばらつきがあり、学力に差が生まれた可能性もあるため、同省は保護者への調査ではコロナ禍の対応についても質問した。

また、休校中の家庭での休校期間中、子どもの

勉強を手伝つたかとの質問に「全く手伝わなかつた」と答えたのは、小学校で17・3%、中学校で49・7%に上つた。学校収容と経年変化分析調査の結果を合わせて分析し、家庭の環境で学力格差が開いた可能性がないかな

どを詳しく調べる。同省は詳細を分析した上で、今後の施策に生かしたい考えだ。

文科省も学力格差について調査を進める必要があるとみており、今回は児童生徒の保護者にも教育に対する考え方や年収、最終学歴などを調査した。今後、この回答内容と経年変化分析調査の結果を合わせて分析し、家庭の環境で学力格差が開いた可能性がないかな

と確認しなかつたという結果を合わせて分析し、家庭の環境で学力格差があるとみており、今回は児童生徒の保護者にも教育に対する考え方や年収、最終学歴などを調査した。今後、この回答内容と経年変化分析調査の結果を合わせて分析し、家庭の環境で学力格差が開いた可能性がないかな

取り戻そうとする学校側

側

が、

背景のひとつとして、

休校による学習の遅れを

&lt;p